



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Network Node Manager i Software

ソフトウェアバージョン: NNMi 10.20

HPE Network Node Manager i Software—HPE
SiteScope統合ガイド

ドキュメントのリリース日: 2016年7月
ソフトウェアのリリース日: 2016年7月

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise製品とサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここに記載された情報は追加の保証をなすものではありません。HPEでは、ここに記載されている技術的、または編集上の不正確さや脱漏については責任を負いません。

ここに記載されている情報は予告なく変更されることがあります。

制限付き権利

機密コンピューターソフトウェアこれらを所有、使用、または複製するには、HPEが提供する有効なライセンスが必要です。FAR 12.211および12.212に準拠し、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダーの標準商用ライセンスの下、米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Appleは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

AMDは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Google™は、Google Inc.の登録商標です。

Intel®, Intel® Itanium®, Intel® Xeon®, Itanium®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Linux®は、米国およびその他の国におけるLinus Torvalds氏の登録商標です。

Internet Explorer, Lync, Microsoft, Windows, Windows Serverは、米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

OracleおよびJavaは、Oracleおよびその関連会社の登録商標です。

Red Hat® Enterprise Linux Certifiedは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標です。

sFlowは、InMon Corpの登録商標です。

UNIX®はThe Open Groupの登録商標です。

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

この製品には、Visigoth Software Society (<http://www.visigoths.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

マニュアル更新

このドキュメントのタイトルページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日。ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新を確認するか、ドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、<https://softwaresupport.hpe.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=> を参照してください。

このサイトでは、HPパスポートのアカウントが必要です。HPパスポートのアカウントがない場合は、HPパスポートのサインインページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

HPEソフトウェアサポートWebサイトには、次のアドレスからアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

このWebサイトでは、製品、サービス、およびHPEソフトウェアが提供するサポートに関する詳細と連絡先の情報を提供します。

HPEソフトウェアサポートでは、お客様にセルフソルブ機能を提供しています。すばやく効率的な方法で、お客様のビジネス管理に必要な対話型テクニカルサポートツールにアクセスできます。サポートの大切なお客様として、サポートWebサイトで次の操作が可能です。

- 興味のあるナレッジドキュメントの検索
- サポート事例と改善要求の送信と追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPEサポートの問合せ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報のレビュー
- 他のソフトウェアユーザーとの情報交換
- ソフトウェアトレーニングの調査と登録

ほとんどのサポートエリアでは、HPパスポートのユーザーとして登録してサインインする必要があります。また、多くのエリアではサポート契約も必要です。HPパスポートのIDを登録するには、<https://softwaresupport.hpe.com> にアクセスし、[HPパスポートに登録]をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次のURLにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

目次

HPE SiteScope	5
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合	5
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合について	5
値	5
統合製品	6
サポートされるSiteScopeモニター	6
ドキュメント	6
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の有効化	6
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の使用法	8
SiteScopeオブジェクトの識別に使用されるSNMPトラップ形式	8
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の変更	10
HPE NNMi – HPE SiteScopeイベント統合の無効化	11
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合のトラブルシューティング	11
NNMiインシデントビューにSiteScopeAlertEventインシデントが表示されない	11
HPE SiteScopeがSiteScopeインシデントのURLから正常に開かない	12
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合	12
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合について	12
値	13
統合製品	13
サポートされるSiteScopeモニター	14
ドキュメント	14
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の有効化	14
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の使用法	17
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の変更	19
HPE NNMiからNPSへの接続を変更する	20
HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の変更	20
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の無効化	20
HPE NNMiからNPSへの接続を無効にする	20
HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の無効化	21
HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合のトラブルシューティング	21
統合データフローを確認する	21
統合設定のHPE NNMi側の確認	23
ファイアウォールの背後のNAT構成環境にノードのレポートデータが存在しない	24
[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームのリファレンス	24
ドキュメントのフィードバックを送信	26

HPE SiteScope

HPE Network Node Manager i Software (HPE NNMi) に対して、ネットワークモニタリングに使用されるイベントコンソールであるHPE SiteScopeをデータコレクターとして使用できます。HPE SiteScopeは、HPE NNMiがモニタリングしているシステムのアプリケーション側をモニタリングし、SNMPトラップを使用してイベントデータをHPE SiteScopeからHPE NNMiに転送します。HPE SiteScopeでは、メトリクスデータをHPE NNMiにレポートすることもできます。

HPE SiteScopeのご購入については、HPE営業担当者にお問い合わせください。

この章では、以下の統合について説明します。

- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合」](#)
- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクスの統合」](#)

NNM iSPI for IP Telephony–HPE SiteScope統合の詳細については、NNM iSPI for IP Telephonyヘルプの「[SiteScopeとの統合の設定](#)」を参照してください。

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合

このセクションでは以下の内容について説明します。

- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合について」](#)
- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の有効化」](#)
- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の使用法」](#)
- [「SiteScopeオブジェクトの識別に使用されるSNMPトラップ形式」](#)
- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の変更」\(10ページ\)](#)
- [「HPE NNMi – HPE SiteScopeイベント統合の無効化」](#)
- [「HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合のトラブルシューティング」](#)

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合について

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合により、設定されたSiteScopeモニターアラート条件が満たされると、SiteScopeサーバーはSNMPトラップをNNMi管理サーバーに送信します。HPE NNMiは、そのモニターアラートトラップをNNMiインシデントに変換します。これらのインシデントから、NNMiコンソールユーザーはそのモニターのコンテキストでHPE SiteScopeを起動できます。NNMi管理サーバーにメッセージを送信するSiteScopeオブジェクトの識別に使用されるSNMPトラップ形式のリストについては、「[表 1: NNMiに送信されるSiteScopeオブジェクトのSNMPトラップ形式](#)」を参照してください。

値

HPE NNMiでSiteScopeインシデント設定を行うことにより、HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合では、SiteScopeで監視するデバイスおよびアプリケーションのステータスに関するSNMPトラップの解釈プロセスが簡素化されます。

これらのトラップは、HPE SiteScopeで設定されたアラートに対してのみ生成されます。統合により、これらのトラップがインシデントとしてNNMiコンソールに表示されます。HPE SiteScopeでアラート条件が解消された(正常になった)ことが示されると、HPE NNMiはこれらのアラートインシデントを自動的に閉じます。

統合製品

このセクションの情報は、以下の製品に当てはまります。

- HPE SiteScope

ヒント: サポートされるバージョンのリストについては、<https://softwaresupport.hpe.com/>にある『NNMiシステムとデバイス対応マトリックス』を参照してください。

- NNMi 10.20

HPE NNMiおよびHPE SiteScopeは、同一のコンピューターまたは異なるコンピューターにインストールできます。サポートされているハードウェアプラットフォームおよびオペレーティングシステムの最新情報については、両方の製品の対応マトリックスを参照してください。

サポートされるSiteScopeモニター

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合では、HPE SiteScopeに設定されたとおりに、すべてのSiteScopeモニタータイプに関してSiteScopeサーバーから送信されるSNMPトラップを受信します。SiteScopeアラート設定には、NNMi管理サーバーをトラップターゲットとして組み込む必要があります。

SiteScopeトラップ設定によって、ソースオブジェクトとしてSiteScopeサーバーと管理対象ホストのどちらが設定されるかが決まります。ソースオブジェクトがHPE NNMiで管理されていない場合、[インシデント設定] フォームの[未解決のSNMPトラップを破棄する] チェックボックスの設定によって、HPE NNMiでのトラップの処理方法が決まります。詳細については、NNMiヘルプの「未解決受信トラップの処理」を参照してください。

ドキュメント

このセクションでは、この統合の設定方法と使用方法について説明します。

SiteScopeで実行される手順の詳細については、HPE SiteScope製品メディアに収録されている『HPE SiteScope SiteScopeの使用法』ガイドを参照してください。

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の有効化

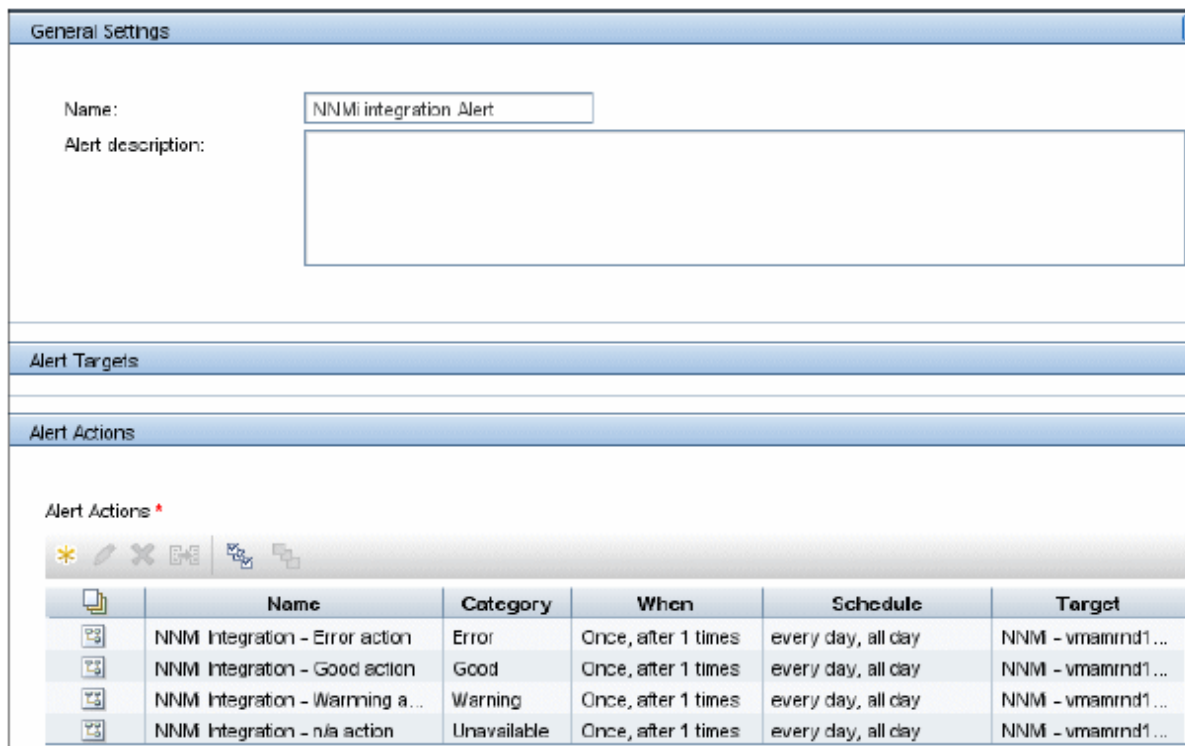
HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合を有効にするには、SNMPトラップがHPE NNMiに送信されるように、1つ以上のSiteScopeモニターを設定します。大まかな手順は、以下のとおりです。

ヒント: NNMiインシデントタイプは、デフォルトで有効になっています。

1. SiteScopeのユーザーインターフェースで、SiteScopeイベントトラップがNNMi管理サーバーに送信されるようにSNMP設定を作成します。SiteScopeで[設定] > [SNMPプリファレンス] を選択し、[SNMPプリファレンス] ページを使用して、送受信の両方のSNMPトラップ設定を設定します。以下の設定を使用して、SNMPトラップのレポート先となるサーバーの設定を作成します。
 - a. **SNMPトラップID:**[企業固有SNMPトラップID] を選択し、1と入力します。
 - b. **SNMPオブジェクトID:**[事前設定SNMPオブジェクトID] を選択し、リストから[HP SiteScopeイベント] を選択して、[システムOIDをSNMPトラップにプレフィックスとして追加します] をオフにします。

- c. [システムOIDをSNMPトラップにプレフィックスとして追加します] がオフになっていることを確認します。[システムOIDをSNMPトラップにプレフィックスとして追加します] チェックボックスはオンにしません。
必要に応じて、ほかのSNMPトラップフィールドを完了します。ユーザーインターフェースの詳細については、SiteScopeヘルプの「SNMPプリファレンス」セクションを参照してください。
2. SiteScopeユーザーインターフェースで、SNMPトラップ設定をアラートアクションターゲットとして設定するアラートを作成しますこのアラートで、可能性のあるモニターステータスごとにアラートアクションを作成します。以下の手順を完了したら、「[図 1: 各モニターステータスのSNMPトラップ警告アクションの設定](#)」を参照してください。
 - a. SiteScopeモニターツリーで [SiteScope] ルートを右クリックし、[新規作成] > [警告] を選択します。
 - b. [警告ターゲット] パネルで、この警告をトリガーするグループ、モニター、またはその両方を選択します。
 - c. [警告アクション] パネルで、[新規警告アクション] をクリックし、[SNMPトラップ] アクションタイプを選択します。
 - d. [警告アクション:SNMPトラップ] ダイアログボックスで、モニターステータスごとにSNMPトラップの警告アクションを設定します。
 - o [アクションタイプの設定] パネルで、[テンプレート] リストからSiteScopeEvent.xmlを選択します。このテンプレートには、SNMPトラップがトリガーされるとSNMPからNNMiに送信されるメッセージの形式と内容が含まれています。次のファイルにあるこのテンプレートは、コピーおよびカスタマイズできます。
<SiteScope root directory>\templates.snmpファイル。
 - o [状態トリガー] パネルで、SNMPトラップのステータスを選択します。
 - o [状態トリガー] パネルで、モニターステータス ([エラー]、[注意域]、[正常]、[利用不可]) ごとに「[警告アクション](#)」パネルで、[\[新規警告アクション\]](#) をクリックし、[\[SNMPトラップ\]](#) アクションタイプを選択します。」を繰り返します。

図 1: 各モニターステータスのSNMPトラップ警告アクションの設定



3. モニターステータスの変更によりSiteScopeで警告がトリガーされると、SNMPトラップがNNMi管理サーバーにレポートされます。NNMiはSNMPトラップを読み取り、属性を変換し、NNMiの[インシデントの参照]ワークスペースにSiteScope イベントデータを表示します。

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合の使用法

HPE NNMiでは、SiteScopeモニターアラートトラップとして2つのインシデントタイプを定義しています。

- SiteScopeAlertEvent1はSNMPv1形式のトラップをNNMiインシデントに変換します。
- SiteScopeAlertEvent2はSNMPv2c形式のトラップをNNMiインシデントに変換します。

これらのインシデントタイプの設定はまったく同じです。HPE SiteScopeからHPE NNMiに送信するトラップの形式にSNMPv1形式とSNMPv2c形式のどちらを使用するかは、SiteScopeのSNMPトラップ設定で指定します。

インシデント設定内で、インシデントの重大度は以下のように設定されます。

- デフォルトのインシデントステータスは危険域で、SiteScopeイベントの重大度であるエラー、NotAvailable、またはNoDataにマップされます。
- インシデント強化では、SiteScopeイベント重大度が注意域の場合に、インシデントステータスを注意域に設定します。
- インシデント強化では、SiteScopeイベント重大度が正常の場合に、インシデントステータスを正常域に設定します。

各 SiteScopeAlertEventトラップには、そのモニターのコンテキストでSiteScopeを起動するためのURLが含まれています。このURLは、[インシデント] フォームの[カスタム属性] タブの.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4カスタムインシデント属性 (CIA) に含まれています。このURLは、統合ビューアーユーザーとしてSiteScopeにログオンするための暗号化された資格証明を渡します

SiteScopeAlertEventインシデントごとに、HPE NNMiは、トラップのペイロードに含まれているデータを比較することで、SiteScopeAlertEventトラップでPairwise処理を実行します。各トラップにはイベントキーvarbind (OID .1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.7) が含まれています。トラップにイベントクローズキーパターンvarbind (OID .1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.8) も含まれている場合、HPE NNMiは、イベントクローズキーパターンvarbindの値を、既存のインシデントのイベントキーvarbindと比較します。HPE NNMiは、一致する既存のインシデントを閉じ、着信トラップに従ってそれらを関連付けます。HPE NNMiは、解決済みの各インシデントに、cia.reasonClosed CIAと関連ノートを追加します。さらに、HPE NNMiは、[正常域] ステータスの各 SiteScopeAlertEventインシデントを自動的に閉じます。

SiteScope SNMPトラップは、システムおよびアプリケーションファミリーで表示されます。

SiteScopeAlertEventトラップの内容の詳細については、HPE NNMiとともに配布されるHP-SITESCOPE-MIBを参照してください。

SiteScopeオブジェクトの識別に使用されるSNMPトラップ形式

「表 1: NNMiに送信されるSiteScopeオブジェクトのSNMPトラップ形式」に、NNMi管理サーバーにメッセージを送信するSiteScopeオブジェクトの識別に使用されるSNMPトラップ形式のリストを示します。これにより、NNMiコンソールユーザーはそのモニターのコンテキストでSiteScopeを起動できます。

SNMPトラップ形式は、SiteScopeEvent.xmlファイルに保存されます。このファイルは、<SiteScopeルートディレクトリ>\templates.snmpフォルダーにあります。

表 1: NNMiに送信されるSiteScopeオブジェクトのSNMPトラップ形式

フィールド名	オブジェクトID (OID)	説明	値
エンタープライズOID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1	SiteScopeルートオブジェクトID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1
トラップOID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.0	SNMPトラップオブジェクトID	(OID) V1の場合: [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.0.1] V2の場合: [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.1]
SiteScopeホスト	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.2	SiteScopeサーバーのIPアドレスまたはホスト名	(IpAddress) [16.55.244.182] または (OctetString) [sisserver.mydomain]
プロバイダー (コレクター)	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.3	SiteScopeアプリケーション名	(OctetString) SiteScope
モニター名	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.1	SiteScopeモニター名	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
モニタータイプ	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.2	SiteScopeモニタータイプ	(OctetString) [Memory Monitor]
モニターID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.3	一意のモニターID	(OctetString) [067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]
セキュリティ保護されたモニタードリルダウンURL	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4	サイレントログオン情報なしで、警告が発生したモニターのコンテキストでSiteScopeを開くURL。統合インスタンスレベル別に設定できます。 ユーザー資格証明のあるドリルダウンURLを取得するには、参照値をmonitorDrilldownUrlSecuredからmonitorDrilldownUrlに変更します。	(OctetString) http://sisserver:8080/SiteScope/servlet/Main?activeid=__SiteScopeRoot__&activerighttop=dashboard&view=new&dashboard_view=Details&dashboard_model=true&dashb
モニターのターゲットホスト	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.5	モニターのターゲットホスト	(IpAddress) [16.55.244.182] または

表1: NNMiに送信されるSiteScopeオブジェクトのSNMPトラップ形式 (続き)

フィールド名	オブジェクトID (OID)	説明	値
			(OctetString) [myhost.mydomain]
モニターターゲット IP	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.6	モニターのターゲット IPアドレス	(IpAddress) [16.55.244.182]
モニター完全名	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.7	ルートからのフルパスを含む、SiteScopeモニター名	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
タイトル	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.1	SiteScopeイベントタイトル	(OctetString) [Alert 'Memory Alert' was triggered on monitor 'Memory monitor on myhost.mydomain' due to a status change]
イベントソース	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.2	イベント (警告またはメトリックス)のソース	(OctetString)
重大度	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.3	SiteScopeイベントの重大度	(Integer) [0,1,2,3] [unavailable, good, warning, error] に対応
イベント時間	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.4	元のイベント時間 (ミリ秒単位)	(TimeTicks) 1287316779
値	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.5	(警告フロー用ではない)	(OctetString) [running]、[25]、[n/a] のいずれか - 警告用
イベントの説明	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.6	起動されたイベントの説明	(OctetString)
イベントキー	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.7	イベントのキー	(OctetString) [sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00:Memory]
イベントクローズキーパターン	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.8	一対のイベントを識別するためのキー	[sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]

HPE NNMi—HPE SiteScopeイベント統合の変更

HPE NNMi—HPE SiteScopeイベント統合を変更するには、以下のいずれかを実行します。

- NNMiコンソールで、SiteScopeAlertEvent1およびSiteScopeAlertEvent2 SNMPトラップのインシデント設定を編集します。
- SiteScopeユーザーインターフェイスで、モニターアラート設定を変更します。

HPE NNMi – HPE SiteScopeイベント統合の無効化

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合を無効にするには、以下のいずれか、または両方を実行します。

- NNMiコンソールで、SiteScopeAlertEvent1およびSiteScopeAlertEvent2の [SNMPトラップの設定] フォームの [有効にする] チェックボックスをオフにします。
- SiteScopeユーザーインターフェースで、以下のいずれかを実行します。
 - モニターおよびグループをアラートアクションターゲットから削除する。
 - SiteScopeモニターに関連付けられたSNMPトラップアラートを無効にするか、削除する。

HPE NNMi–HPE SiteScopeイベント統合のトラブルシューティング

このセクションでは以下の内容について説明します。

- 「NNMiインシデントビューにSiteScopeAlertEventインシデントが表示されない」
- 「HPE SiteScopeがSiteScopeインシデントのURLから正常に開かない」

NNMiインシデントビューにSiteScopeAlertEventインシデントが表示されない

NNMiインシデントビューに予期されるすべてのSiteScopeAlertEventインシデントが表示されない場合は、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールで、SiteScopeAlertEvent1とSiteScopeAlertEvent2のインシデント設定を調べます。
 - SiteScopeAlertEvent1とSiteScopeAlertEvent2のインシデントタイプが有効になっていることを確認します。
 - インタフェースまたはノードが設定されている場合は、予期されるSiteScopeトラップがそれらの設定によってブロックされていないことを確認します。
2. NNMiコンソールで、インシデントビューのフィルターを調べます。
現在のフィルターをSiteScopeAlertEvent1とSiteScopeAlertEvent2のインシデント設定と比較します。フィルターがそれらのインシデントタイプをブロックしていないことを確認します。
3. [インシデント設定] フォームの [未解決のSNMPトラップを廃棄する] チェックボックスがオンになっている場合は、SiteScopeモニターに関連付けられたノードがNNMiトポロジ内にあることを確認します。
SiteScopeトラップ設定によって、ソースオブジェクトとしてSiteScopeサーバーと管理対象ホストのどちらが設定されるかが決まります。
<<トラップ受信のトラブルシューティングの内容がDrefのインシデントの章に追加された場合、それを参照します>>
4. SiteScopeユーザーインターフェースで、HPE SiteScopeイベントトラップに関するSNMPトラップ設定の内容を確認します。
5. SiteScopeユーザーインターフェースで、予期される各モニターアラートでSNMPトラップ設定がアラートアクションターゲットとして設定されていることを確認します。
6. SiteScopeユーザーインターフェースで、テストトラップをHPE NNMiに送信します。

HPE SiteScopeがSiteScopeインシデントのURLから正常に開かない

[インシデント] フォームの [カスタム属性] タブに表示される .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIAのURLから HPE SiteScopeが正常に起動しない場合は、以下の手順を実行してください。

1. SiteScopeユーザーインターフェースへのアクセスを確認します。
 - a. 新しいブラウザウィンドウで、SiteScopeユーザーインターフェースを直接開きます。
SiteScopeユーザーインターフェースが正常に動作しない場合は、ブラウザの設定が『HPE SiteScope リリースノート』に記載されている要件を満たすことを確認します。
 - b. .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIAからブラウザのアドレスフィールドにURLをコピーします。ログオン資格証明を削除します。SiteScopeのログオンウィンドウで、SiteScopeログオン情報を入力します。
2. URLに含まれるSiteScope統合ビューアーのユーザー資格証明を確認します。 .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIAからブラウザのアドレスフィールドにURLをコピーします。(ログオン資格証明を保持します)。
このテストに失敗する場合は、SiteScope管理者に統合ビューアーユーザーのステータスについて問い合わせてください。統合ビューアーユーザーのパスワードを最近変更した場合、パスワードの変更前に存在した SiteScopeへのURLは使用できません。

HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合

このセクションでは以下の内容について説明します。

- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合について」](#)
- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の有効化」](#)
- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の使用法」](#)
- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の変更」](#)
- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の無効化」](#)
- [「HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合のトラブルシューティング」](#)
- [「\[HPE NNMi—HPE SiteScope System Metricsの統合設定\] フォームのリファレンス」](#)

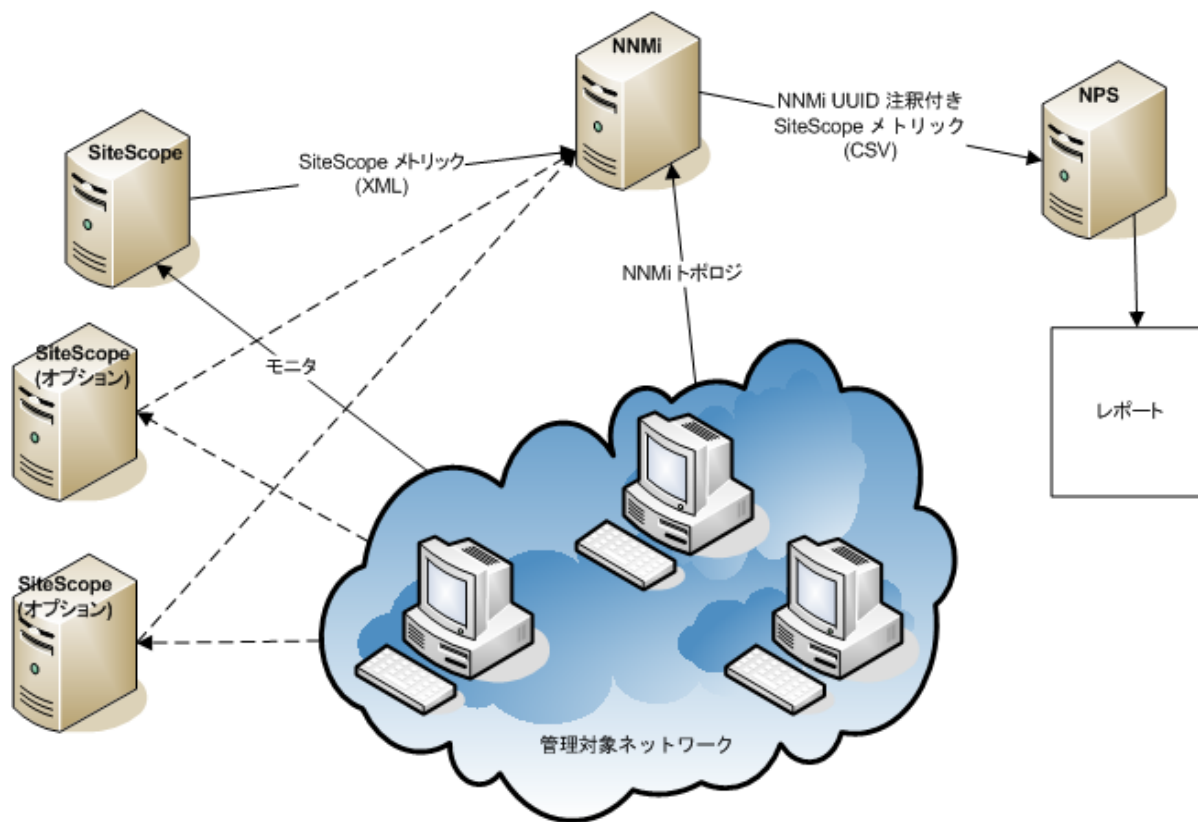
HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合について

HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックスの統合では、SiteScopeモニターで収集されたメトリックスデータがHPE NNMi iSPI Performance for Metrics Network Performance Server (NPS)に入力されます。この統合では、データを以下のように処理します。

1. HPE SiteScopeはモニターデータをXMLファイルに収集し、SiteScopeデータ統合設定のレポート間隔で収集したデータをHPE NNMiに渡します。
2. HPE NNMiはSiteScopeデータにNNMiノードのUUIDを追加します。
3. HPE NNMiは、NPSが取得できるように設定された場所に追加されたデータを配置します。
4. NPSは、NPS累積間隔で追加されたデータを取り込みます。

「[図 2: HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合のデータフロー](#)」に、HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合のデータフローを示します。

図2: HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合のデータフロー



値

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合により、SiteScopeで収集したメトリクスデータのレポートをNPSで作成できます。

統合製品

このセクションの情報は、以下の製品に当てはまります。

- HPE SiteScope

ヒント: サポートされるバージョンは、NNMiシステムとデバイス対応マトリクスにリストされています。

- NNMi 10.20
- HPE NNM iSPI Performance for Metricsバージョン10.10:

注: この統合には、HPE NNM iSPI Performance for Metricsライセンスが必要です。

HPE NNMi、HPE NNM iSPI Performance for Metrics、およびHPE SiteScopeは、同一のコンピューターまたは異なるコンピューターにインストールできます。

サポートされているハードウェアプラットフォームおよびオペレーティングシステムの最新情報については、すべての製品の対応マトリクスを参照してください。

サポートされるSiteScopeモニター

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合では、以下のタイプのSiteScopeモニターからのデータを認識します。

- CPU使用率モニター
- 動的ディスク容量モニター
- ディスク容量モニター
- メモリーモニター
- Microsoft Windowsリソースモニターのプロセス監視対象オブジェクト
- Linuxリソースモニターのプロセスモニタリング対象オブジェクト

監視対象ノードは、HPE NNMiで管理する必要があります。この統合では、NNMiトポロジに存在しないノードと管理対象外のノードのデータを破棄します。

ドキュメント

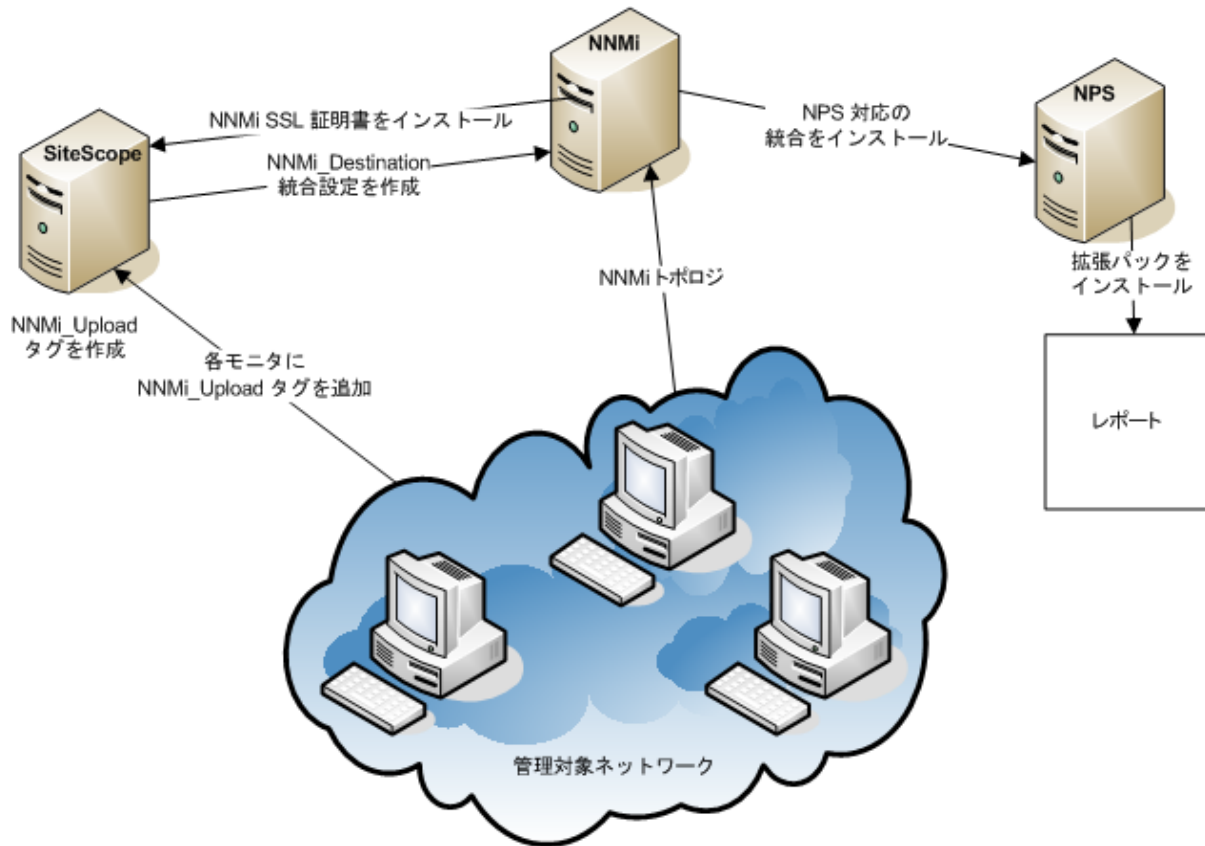
このセクションでは、HPE SiteScopeと通信するようにHPE NNMiを設定する方法と、SiteScopeが収集したデータから作成可能なNPSレポートについて説明します。

SiteScopeモニターの設定方法については、SiteScope製品メディアに収録されている『HPE SiteScope Using SiteScope guide』で説明されています。


HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の有効化

「[図 3: HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の設定ポイント](#)」に、HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の設定ポイントを示します。

図 3: HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合の設定ポイント



HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合を有効にするには、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールで、SiteScopeシステムメトリクス統合 パックを使用し、統合を有効にしてNPSを設定します。
 - a. オプション。NNMiコンソールに接続するためにこの統合で使用する、Web Service ClientロールのNNMiユーザーを作成します。
または、この統合でWeb Service Clientロールの既存ユーザーを使用できます。
 - b. **[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームを開きます (**[統合モジュールの設定]** > **[HPE SiteScopeシステムメトリクス]**)。
 - c. **[統合の有効化]** チェックボックスをオンにします。
 - d. NNMi管理サーバーへの接続情報を入力します。これらのフィールドの詳細については、**[HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合の有効化]**を参照してください。
 - e. フォームの下部にある**[送信]**をクリックします。
ウィンドウにステータスメッセージが表示されます。NNMi資格証明に問題があることを示すメッセージが表示されたら、**[戻る]**をクリックして、エラーメッセージを参考に値を調整してください。
 - f. 結果ウィンドウから、データ統合URLを一時的な場所にコピーします。この値はHPE SiteScopeを設定するときに使用します。
2. SiteScopeユーザーインターフェースで、HPE NNMiとSSL通信するようにSiteScopeサーバーを設定します。
 - a. **[設定]** ワークスペースで、**[証明書管理]** ページを開き、**[証明書のインポート]**  をクリックします。
 - b. **[ソースの選択]** で、HPE SiteScopeに対してNNMi管理サーバーを特定する情報を指定します。

- [ホスト] が選択されていることを確認してから、NNMi管理サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
 - 必要に応じて、NNMi管理サーバーのHTTPSポートと一致するようにポート番号を変更します。
詳細については、「[HPE NNMi-HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の有効化](#)」を参照してください。
- c. [ロード] をクリックします。
NNMi証明書情報は、[ロード済み証明書] の下に表示されます。証明書のエイリアスを記録します。
- d. NNMi証明書を選択し、[インポート] をクリックします。
NNMi証明書の一覧は、[証明書管理] ページに表示されます。
3. SiteScopeユーザーインターフェイスで、NNMiターゲットを識別するのに使用する検索/フィルタータグを作成します。
- a. [設定] ワークスペースで、[検索/フィルタータグ] ページを開き、[新規タグ] * をクリックします。
 - b. タグ名 (たとえば、NNMi_upload) と少なくとも1つの値を入力します。
4. SiteScopeのユーザーインターフェイスで、HPE SiteScopeとHPE NNMiの間の接続を設定します。
- a. [設定] ワークスペースで、[統合設定] ページを開き、[新規統合] * をクリックして、[データ統合] をクリックします。
 - b. [一般設定] で、名前 (たとえば、NNMi_receiver) とオプションの説明を入力します。
 - c. [データ統合の優先設定] で、以下の設定を行います。
 - [レシーバーのURL] フィールドに、この手順の「[NNMiコンソールで、SiteScopeシステムメトリックス統合パックを使用し、統合を有効にしてNPSを設定します。](#)」の最後に保存したURLを貼り付けます (例: https://nnmi_server.example.com:443/sitescope-adapter/sitescopereceiver)。
 - [GZIP圧縮] チェックボックスをオンにします。
 - [追加データを含める] と [リダイレクトのエラー] チェックボックスをオフにします (これらはデフォルト設定です)。
 - [要求時に認証] チェックボックスをオンにします。 (これはデフォルト設定です)。
 - [統合を無効化] チェックボックスをオフにします。 (これはデフォルト設定です)。
 その他のすべての設定については、デフォルトの設定を受け入れます。
 - d. [Webサーバーのセキュリティ設定] の下で、「[NNMiコンソールで、SiteScopeシステムメトリックス統合パックを使用し、統合を有効にしてNPSを設定します。](#)」の統合設定フォームで指定したNNMiユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - e. [レポートタグ] の下で、「[SiteScopeユーザーインターフェイスで、NNMiターゲットを識別するのに使用する検索/フィルタータグを作成します。](#)」で作成した検索/フィルタータグ (たとえば、NNMi_upload) を選択します。
5. SiteScopeユーザーインターフェイスで、NPSのSiteScopeレポートに情報を提供するモニターを設定します。
- a. 必要に応じて、新規モニターを作成するか、サポートされるタイプの既存のモニターを特定します。
 - CPU使用率モニター
 - ディスク容量モニター
 - メモリーモニター
 - Microsoft Windowsリソースモニターのプロセス監視対象オブジェクト
 - Linuxリソースモニターのプロセスモニタリング対象オブジェクト

- b. 「SiteScopeユーザーインターフェイスで、NNMiターゲットを識別するのに使用する検索/フィルタータグを作成します。」で作成した検索/フィルタータグ(たとえば、NNMi_upload)を、HPE NNMiにデータを渡すモニターに追加します。

この統合では、NNMiトポロジ内の管理対象ノードのデータのみを処理できます。したがって、NNMiトポロジ内のノードのモニターにのみタグを適用します。

- c. 推奨。HPE NNMiにデータを渡すモニターを1つのモニターグループに集めます。

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の使用法

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合により、NPSで以下のSiteScopeモニターレポートを作成できます。

- カレンダー
- チャートの詳細
- ヒートチャート
- 管理対象インベントリ
- 最も変化した
- ピーク期間
- しきい値スリーブ
- 上位N
- 上位Nチャート

SiteScopeシステムメトリックスレポートにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールで、[アクション] > [レポート-レポートメニュー] をクリックします。
2. NPSの[レポート] ワークスペースで、[SiteScopeシステムメトリックス] > [SiteScope] > [System_Metrics] フォルダーを開きます。

以下のヒントをSiteScopeシステムメトリックスレポートに適用できます。

- 上位Nなどの一部のレポートでは、SiteScopeモニターの1つのタイプを対象にしたレポートのほうが、複数のモニタータイプについてのレポートより容易に解釈できます。トポロジフィルターで、[ComponentType] 属性として1つの値を選択します。
- [ノード名] 属性が設定されていない場合、レポートには、選択したタイプのすべてのモニターのデータが含まれます。1つ以上の特定のノードにレポートデータを限定するには、それに応じて[ノード名] 属性を設定します。[ComponentType] 属性を設定すると、[ノード名] 選択リストには、選択したモニタータイプを含むノードのみが表示されます。
- Windowsリソースモニターについてのレポートの場合は、Idle onおよび_Total onデータをフィルターで除去するのが効果的です。それには、トポロジフィルターで、[ComponentName] 属性を_Total onおよびIdle onと異なる値に設定します。

「表2: 使用可能なレポートグループ化オプション」に、統合によって追加されるグループ化オプションの一覧を示します。

表2: 使用可能なレポートグループ化オプション

オプション名	説明
Windowsプロセス - プロセスの作成	測定対象プロセスを作成した親プロセスのプロセスID (PID) を識別する整数値。

表2: 使用可能なレポートグループ化オプション (続き)

オプション名	説明
Windowsプロセス-IDプロセス	測定対象プロセスのプロセスID (PID) を識別する整数値。
Linuxプロセス - PID	測定対象プロセスのプロセスID (PID) を識別する整数値。
Linuxプロセス - ユーザー	測定対象プロセスのLinuxユーザーID (uid) を識別する整数値。
修飾コンポーネント名	<p>メトリクス名と、メトリクスを収集したノードを識別する文字列値。修飾コンポーネント名の形式は、<metric_name> on <node_long_name> (例: disk percent full on device.example.com) です。</p> <p>修飾コンポーネント名は、推奨されるグループ化オプションの選択肢です。</p>

「表3: 報告可能なSiteScopeシステムメトリクス」に、統合によって追加されるメトリクスの一覧を示します。各メトリクスについて、実際の値をレポートするように選択できます。メトリクスが多い場合は、しきい値情報もレポートできます。レポート値の解釈の詳細については、各オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

表3: 報告可能なSiteScopeシステムメトリクス

モニタータイプ	使用可能なメトリクス
CPU使用率 ¹	<ul style="list-style-type: none"> CPU使用率
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> 空きディスクMB ディスク割合 (フル)
メモリー ²	<ul style="list-style-type: none"> メモリーページ/秒 仮想メモリー使用率 空き仮想メモリーMB スワップメモリー使用率 空きスワップメモリーMB 物理メモリー使用率 空き物理メモリーMB
Microsoft Windowsのリソース	<ul style="list-style-type: none"> Windowsプロセス - 権限時間割合 Windowsプロセス - プロセッサ時間割合 Windowsプロセス - ユーザー時間割合 Windowsプロセス - プロセスIDの作成 Windowsプロセス - 経過時間 Windowsプロセス - 処理数 Windowsプロセス - IDプロセス Windowsプロセス - IOデータ (バイト/秒) Windowsプロセス - IOデータ操作/秒

表3: 報告可能なSiteScopeシステムメトリックス (続き)

モニタータイプ	使用可能なメトリックス
	<ul style="list-style-type: none"> • Windowsプロセス - その他のIOデータ (バイト/秒) • Windowsプロセス - その他のIO操作 /秒 • Windowsプロセス - IO読み取り (バイト/秒) • Windowsプロセス - IO読み取り操作 /秒 • Windowsプロセス - IO書き込み (バイト/秒) • Windowsプロセス - IO書き込み操作 /秒 • Windowsプロセス - ページ障害 • Windowsプロセス - ページファイル (バイト) • Windowsプロセス - ピーク時のページファイル (バイト) • Windowsプロセス - 非ページプール (バイト) • Windowsプロセス - ページプール (バイト) • Windowsプロセス - 優先度 ベース • Windowsプロセス - プライベート (バイト) • Windowsプロセス - スレッド 数 • Windowsプロセス - 仮想 (バイト) • Windowsプロセス - ピーク時の仮想 (バイト) • Windowsプロセス - ワーキングセット • Windowsプロセス - プライベートワーキングセット • Windowsプロセス - ピーク時のワーキングセット
Linuxのリソース ³	<ul style="list-style-type: none"> • Linuxプロセス - CPU割合 • Linuxプロセス - Memsize • Linuxプロセス - Number_Running • Linuxプロセス - PID • Linuxプロセス - ユーザー
<p>1 HPE SiteScopeでは、LinuxおよびAIXオペレーティングシステムで収集したCPU使用率データを、特定のCPU単位ではなく、システム全体で単一の平均値として要約します。この統合では平均値をNPSに送信しないため、LinuxおよびAIXオペレーティングシステムではCPU使用率データを使用できません。</p> <p>2 HPE SiteScopeは、すべてのオペレーティングシステムでこれらのメトリックスをすべて収集するわけではありません。</p> <p>3 LinuxオペレーティングシステムのLinuxリソースモニターの場合、HPE SiteScopeはCPU割合、実行数、プロセスIDのみを収集します。Linuxノードのメモリーサイズとユーザーデータは使用できません。</p>	

HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の変更

HPE NNMi—HPE SiteScopeシステムメトリックス統合は、以下の方法で変更できます。

- [「HPE NNMiからNPSへの接続を変更する」](#)
- [「HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の変更」](#)

HPE NNMiからNPSへの接続を変更する

NPSへの接続情報を変更するには、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールで **[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームを開きます (**[統合モジュールの設定]** > **[HPE SiteScope System Metrics]**)。
2. 該当するように値を変更します。このフォームのフィールドの詳細については、「[HPE NNMiからNPSへの接続を変更する](#)」を参照してください。
3. フォームの上部にある **[統合の有効化]** チェックボックスがオンであることを確認し、フォームの下部にある **[送信]** をクリックします。

変更はただちに有効になります。有効にすると、**[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームに表示されるデータ統合URLが更新されます。このURLが変更された場合は、「[HPE NNMiからNPSへの接続を変更する](#)」に記載されているとおりにSiteScopeのデータ統合設定を更新します。

HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の変更

SiteScopeデータレシーバーの情報を変更するには、以下の手順を実行します。

1. SiteScopeインターフェースで、HPE SiteScopeとHPE NNMiの間の接続を定義するデータ統合を開きます (**[設定]** > **[統合設定]**)。
2. 該当するように値を変更します。このフォームのフィールドの詳細については、SiteScopeヘルプを参照してください。
3. **[統合を無効化]** チェックボックスがオフになっていることを確認して、フォームの下部にある **[OK]** をクリックします。

変更はただちに有効になります。

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合の無効化

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリックス統合を完全に無効にするには、以下の両方の手順を実行します。

- [「HPE NNMiからNPSへの接続を無効にする」](#)
- [「HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の無効化」](#)

HPE NNMiからNPSへの接続を無効にする

HPE NNMiによるSiteScopeのモニターデータの処理を停止するには、以下の手順を実行します。

1. NNMiコンソールで **[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームを開きます (**[統合モジュールの設定]** > **[HPE SiteScope System Metrics]**)。
2. フォームの上部にある **[統合の有効化]** チェックボックスをオフにし、フォームの下部にある **[送信]** をクリックします。

変更はただちに有効になります。

HPE SiteScopeからHPE NNMiへの接続の無効化

HPE SiteScopeからNNMi管理サーバーへのモニターデータの送信を停止するには、以下の手順を実行します。

1. SiteScopeインタフェースで、HPE SiteScopeとHPE NNMiの間の接続を定義するデータ統合を開きます ([設定] > [統合設定])。
2. [統合を無効化] チェックボックスをオンにして、フォームの下部にある [OK] をクリックします。
変更はただちに有効になります。

HPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合のトラブルシューティング

XML解析エラーや、NNMiトポロジに存在しないノードのモニターデータの情報を含む、SiteScopeデータの処理に関連するメッセージはNNMi管理サーバー上の `nnm.0.0.log` ファイル (これより古いファイルも含む) に記録されます。NNMi管理サーバー上で問題が発生する場合、それらのログファイルから文字列 `com.hp.ov.nnm.sitescope.im` または `com.hp.ov.nms.im.sitescope` で始まるクラスに対する SEVERE (重大) メッセージおよび WARNING (警告) メッセージを探してください。詳細については、『NNMiデプロイメントリファレンス』の「NNMiロギング」を参照してください。

SiteScopeログファイルには、データ統合の問題に関するメッセージが収集されます。SiteScopeログファイルを調べて、以下の設定問題の1つ以上が原因で発生しやすいデータ送信エラーがないか探してください。

- 証明書エラー。NNMiの証明書がHPE SiteScopeに正しくロードされていません。
- ユーザー名とパスワードの認証エラー。NNMiコンソールの [HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームで [NNMiユーザー] と [NNMiパスワード] の値のいずれか、または両方が正しくありません。
- 統合モジュールの有効化エラー。NNMiコンソールの [HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームで [統合の有効化] チェックボックスがオフになっています。

SiteScopeログファイルの詳細については、SiteScopeのマニュアルを参照してください。

このセクションでは以下の内容について説明します。

- [「統合データフローを確認する」](#)
- [「統合設定のHPE NNMi側の確認」](#)
- [「ファイアウォールの背後のNAT構成環境にノードのレポートデータが存在しない」](#)

統合データフローを確認する

SiteScopeからのXMLファイル

システムメトリクス統合では、SiteScopeデータサンプルはNNMi管理サーバー上の以下のディレクトリに*.gzファイルで保存されます。

- Windowsの場合: `%NnmDataDir%\shared\perfspi\datafiles\metric\working\sitescope`
- Linuxの場合:
`$NnmDataDir/shared/perfspi/datafiles/metric/working/sitescope`

デフォルトで、システムメトリクス統合は新しいファイルをこのディレクトリに毎分配置し、HPE NNMiは5分ごとにそれらのファイルを取り込みます。

ヒント: HPE SiteScopeがシステムメトリクス統合にデータサンプルを送信する頻度は、SiteScopeデータ統合設定のレポート間隔によって決まります。NNMiの使用率をユーザーが設定することはできません。

sitescopeディレクトリが2分を超えて空のままの場合は、HPE SiteScopeからファイルが送信されていません。この場合は、以下を実行します。

1. SiteScopeユーザーインターフェースで、データ統合設定が有効であり、「[統合データフローを確認する](#)」の説明に従って設定されていることを確認します。
また、[レポート間隔] フィールドの値も確認します。
2. SiteScopeユーザーインターフェースで、少なくとも1つのモニター設定に、データ統合設定に関連付けられた検索/フィルタータグがあることを確認します。

sitescopeディレクトリにファイルが累積されると、HPE NNMiはファイルを取り込まなくなります。この場合は、NNMiコンソールでHPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合が正しく設定されていることを確認します。詳細については、「[統合データフローを確認する](#)」を参照してください。

NNMiからのCSVファイル

HPE NNMiは、NPSで使用するSiteScopeMetrics_*.csv.gzファイルをNNMi管理サーバー上の以下のディレクトリに保存します。

- Windowsの場合: %NnmDataDir%\shared\perfspi\datafiles\metric\final
- Linuxの場合: \$NnmDataDir/shared/perfspi/datafiles/metric/final

HPE NNMiは、およそ5分ごとに新しいファイルをこのディレクトリに配置し、NPSはこれらのファイルをおよそ5分ごとに取り込みます。

ヒント: NNMiの配置率をユーザーが設定することはできません。NPSの累積率により、NPSがこのディレクトリのファイルを取り込む頻度が決まります。NPS累積率はHPE NNM iSPI Performance for Metricsによって設定されます。ユーザーが設定することはできません。

finalディレクトリが10分より長い間空の状態になると、HPE NNMiはファイルを配信しなくなります。この場合は、NNMiコンソールでHPE NNMi–HPE SiteScopeシステムメトリクス統合が正しく設定されていることを確認します。詳細については、「[統合データフローを確認する](#)」を参照してください。

finalディレクトリにファイルが累積されると、NPSはファイルを取り込まなくなります。その場合は、NPSのトラブルシューティングのマニュアルを参照してください。

レポート

ファイルがfinalディレクトリを通過してから2時間以内にNPSユーザーインターフェースでSiteScopeレポートが使用可能にならない場合、この統合は正しく設定されていません。この場合は、HPE SiteScopeとNNMiのovjbossプロセス、NPSを再起動します。

1. HPE SiteScopeを再起動します。
 - Windowsの場合:
 - [サービス] コントロールパネル ([スタート] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス]) を開きます。
 - サービスのリストで、[SiteScope] を右クリックし、[開始] をクリックします。
 - LinuxまたはSolarisの場合:

- SiteScopeがインストールされているサーバーで、ターミナルウィンドウを開きます。
- 以下の構文を使用して、startコマンドのシェルスクリプトを実行します。

```
<installpath>/SiteScope/start
```

2. 以下のコマンドを実行してHPE NNMIを再開します。
 - a. `ovstop`
 - b. `ovstart`
3. NPSを再起動します。

統合設定のHPE NNMI側の確認

1. NNMIコンソールで **[HPE NNMI–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームを開きます (**[統合モジュールの設定]** > **[HPE SiteScopeシステムのメトリックス]**)。このフォームのフィールドの詳細については、**[HPE NNMIからNPSへの接続を変更する]**を参照してください。
2. 統合のステータスを確認するには、**[HPE NNMI–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームで、フォーム下部にある**[送信]**をクリックします (設定の変更は行いません)。ウィンドウにステータスメッセージが表示されます。
3. NNMIへの接続が正常に設定されていることを確認します。

注: この手順の**[NNMIコンソールで [HPE NNMI–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームを開きます ([統合モジュールの設定] > [HPE SiteScopeシステムのメトリックス])。]**でNNMIコンソールに接続するために、この手順で説明してある情報を使用した場合は、NNMIコンソールに再接続する必要はありません。**[この手順の「NNMIへの接続が正常に設定されていることを確認します。」で正常に接続できたときに使用した値で [HPE NNMI–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームを更新します。]**に進みます。

- a. Webブラウザで、以下のURLを入力します。

```
<protocol>://<NNMIserv>:<port>/nnm/
```

ここで、各変数は**[HPE NNMI–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]** フォームの値と次のように関係します。

- **[NNMI SSLの有効化]** チェックボックスがオンの場合、<protocol> はhttpsです。
 - **[NNMI SSLの有効化]** チェックボックスがオフの場合、<protocol> はhttpです。
 - <NNMIserv> は**[NNMIホスト]** の値です。
 - <port> は**[NNMIポート]** の値です。
- b. プロンプトが表示されたら、管理者ロールでNNMIユーザーの資格認定を入力します。NNMIコンソールが表示されるはずですが、NNMIコンソールが表示されない場合は、HPE NNMIへの接続に使用している情報が正しいかどうかをNNMI管理者に確認します。NNMIコンソールが表示されるまで、HPE NNMIへの接続のトラブルシューティングを続けます。

注: 「Webサービスクライアント」ロールを持つユーザーとしてNNMIコンソールにログオンすることはできません。

- c. NNMI管理者に連絡して、Webサービスクライアントロールを持つNNMI統合ユーザーの**[NNMIユー**

ザー]と**[NNMiパスワード]**の値を確認します。

パスワードはNNMiコンソールでは非表示です。NNMiユーザー名のパスワードが何か確信がない場合は、NNMi管理者に問い合わせるか、またはパスワードをリセットします。

4. この手順の「**この手順の「NNMiへの接続が正常に設定されていることを確認します。」**」で正常に接続できたときに使用した値で**[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]**フォームを更新します。
詳細については、「**HPE NNMiからNPSへの接続を変更する**」を参照してください。
5. フォームの下部にある**[送信]**をクリックします。
6. ステータスメッセージに問題があることがまだ表示される場合は、以下の手順を実行します。
 - a. Webブラウザのキャッシュをクリアします。
 - b. Webブラウザから、すべての保存フォームまたはパスワードデータをクリアします。
 - c. Webブラウザウィンドウを完全に閉じてから、もう一度開きます。
 - d. この手順の「**この手順の「NNMiへの接続が正常に設定されていることを確認します。」**」で正常に接続できたときに使用した値で**[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定]**フォームを更新します。」と「**フォームの下部にある [送信] をクリックします。**」を繰り返します。
7. 「**統合データフローを確認する**」の説明に従って、SiteScopeモニターデータの転送を監視して設定をテストします。

ファイアウォールの背後のNAT構成環境にノードのレポートデータが存在しない

ネットワークアドレス変換 (NAT) 環境において、SiteScopeサーバーが、ファイアウォールの背後に展開されている場合に、ファイアウォールの外部に重複するIPアドレスを持つノードのデータをレポートしても、HPE NNMiは監視対象のノードを判別できません。この場合、この統合では、これらのノードのSiteScopeデータをNPSに提供しないため、NPSのレポートにこの情報は含まれません。

[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームのリファレンス

[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームには、HPE NNMiとHPE SiteScope間の通信を設定するパラメーターが含まれています。このフォームは、**[統合モジュールの設定]** ワークスペースから使用できます。

注: [HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームにアクセスできるのは管理者ロールを持つNNMiユーザーのみです。

[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームでは、NNMi管理サーバーを識別するための情報を収集します。

統合設定に変更を適用するには、[HPE NNMi–HPE SiteScope System Metricsの統合設定] フォームの値を更新し、**[送信]**をクリックします。

「**表4: NNMi管理サーバーの情報**」に、NNMi管理サーバーへの接続パラメーターを示します。これはNNMiコンソールを開くために使用したのと同じ情報です。これらの値の多くを決定するには、NNMiコンソールセッションを起動するURLを調べます。NNMi管理者と協力し、設定フォームのこのセクションに適切な値を決定します。

表4: NNMi管理サーバーの情報

フィールド	説明
NNMi SSLの有効化	<p>接続プロトコル指定。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HTTPSを使用するようにNNMiコンソールが設定されている場合は、[NNMi SSLの有効化] チェックボックスをオンにします。 • HTTPを使用するようにNNMiコンソールが設定されている場合は、[NNMi SSLの有効化] チェックボックスをオフにします。
NNMiホスト	<p>NNMi管理サーバーの完全修飾ドメイン名。このフィールドには、NNMiコンソールへのアクセスに使用するホスト名があらかじめ入力されています。この値がNNMi管理サーバー上で <code>nnmofficialfqdn.ovpl -t</code> コマンドを実行したときに返される名前であることを確認します。</p>
NNMiポート	<p>NNMiコンソールに接続するためのポート。このフィールドには、次のファイルで指定されているように、NNMiコンソールとの通信のためにjbossアプリケーションサーバーが使用するポートがあらかじめ記入されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windowsの場合: <code>%NnmDataDir%\conf\nnm\props\nms-local.properties</code> • Linuxの場合: <code>\$NnmDataDir/conf/nnm/props/nms-local.properties</code> <p>NNMiコンソールからNNMiポートの値を変更することはできません。</p> <p>SSL以外の接続では、<code>nmsas.server.port.web.http</code>の値を使用します。これはデフォルトでは80または8004です (HPE NNMiがインストールされたときに別のWebサーバーが存在するかどうかで、どちらかが決まります)。</p> <p>SSL接続には、<code>nmsas.server.port.web.https</code>の値を使用します。これはデフォルトでは443です。</p>
NNMiユーザー	<p>NNMiコンソールに接続するためのユーザー名。このユーザーには、Web Service Clientロールが必要です。</p>
NNMiパスワード	<p>指定のNNMiユーザーのパスワード。</p>

ドキュメントのフィードバックを送信

このドキュメントに関するご意見については、電子メールでドキュメントチームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

HPE Network Node Manager i Software—HPE SiteScope統合ガイドに関するフィードバック (Network Node Manager i Software NNMi 10.20)

電子メールの本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、network-management-doc-feedback@hpe.com にお送りください。

フィードバックをお寄せください